

## 令和4年度第4回経営会議 会議概要

### 1 開催日時

令和5年3月23日（木） 14:00～16:18

### 2 場 所

本部棟3階 大会議室

### 3 出席者（委員12名中10名出席）

学外委員：山本委員<sup>\*</sup>、谷村委員、木村委員、菅原委員、菅委員

（欠席：平賀委員、床次委員）

※山本委員はzoomによるリモート出席

学内委員：千葉委員、鈴木委員、宮野委員、石堂委員、狩野委員

### 4 審議事項及び審議結果

#### (1) 公立大学法人岩手県立大学令和5年度計画（案）及び予算（案）について

令和5年度計画案及び予算案について、計画案を狩野委員から、予算案を宮野委員から説明し、質疑を経て、原案のとおり承認された。併せて、岩手県へ当該計画案及び予算案を提出することが確認された。

#### (2) 公立大学法人岩手県立大学顧問等に関する規程の制定について

上記規程の策定について、千葉委員から説明した。各委員からの質疑等はなく、原案のとおり承認された。

#### (3) 公立大学法人岩手県立大学ダイバーシティ推進室の設置について

ダイバーシティ推進室の設置について、千葉委員から説明し、質疑を経て、原案のとおり承認された。

#### (4) 公立大学法人岩手県立大学文書管理委員会の設置について

文書管理委員会の設置について、事務局より説明した。各委員からの質疑等はなく、原案のとおり承認された。

#### (5) 組織改編に伴う関係規則等の一部改正について

組織改編に伴う関係規則等の一部改正について、事務局より説明した。各委員からの質疑等はなく、原案のとおり承認された。

## 5 その他

### (1) 令和4年度内部監査の結果概要及び対応について

内部監査結果及び対応について、内部監査室長から資料に基づき報告した。補足として、先日の監査の場において、高い評価を受けた旨説明した。

### (2) 広報委員会による広報戦略の策定等について

広報委員会による広報戦略の策定等について、狩野委員から資料に基づき報告した。

### (3) 第6次岩手県立大学情報システム整備計画案について

第6次岩手県立大学情報システム整備計画案について、狩野委員から資料に基づき報告した。補足として、DXの推進に係る取り組みについては、上記計画案とは別に、推進していく為の構想を練っている段階である旨説明した。

### (4) 筋ジストロフィーによる障がいをもつ学生の受入れについて

上記学生の受入れに係る体制について、事務局から資料に基づき報告した。

### (5) 本庄照子奨学金の選考基準の見直しについて

上記選考基準の見直しについて、事務局から資料に基づき報告した。補足として、これまで将来の返済に対して不安を抱え、貸与型奨学金を借りることに躊躇していた学生についても、今回の見直しによって選考の対象となる旨説明した。

### (6) 令和4年度岩手県立大学の就職内定状況（2月末現在）について

2月末現在の就職内定状況について、事務局より説明した。補足として、コロナ禍の終息を見据え、県外企業等からの本学学生に対する求人アプローチも強くなっており、危機感を感じている旨説明した。

### (7) LGBTQ+(プラス)相談体制の整備について

上記相談窓口の設置について、事務局より説明した。

### (8) 「岩手県立大学明るい選挙推進サポーター県大 Voters」の第26回参議院議員通常選挙総務大臣表彰伝達式について

上記学生有志団体の活動、及び伝達式について、事務局より説明した。また、本学の鈴木学長より、学長特別賞を授与した旨併せて報告した。

- (9) **令和5年度実施予定の「物価高に対する経済対策支援事業」について**  
物価高に対する経済対策支援事業について、事務局より説明した。  
なお、支援機構の助成金を最大限活用しつつも、支援のため、本学からも990万円持ち出しする旨併せて説明した。
- (10) **令和5年度からの本学における安全保障輸出管理体制について**  
安全保障輸出管理体制について、事務局より説明した。  
補足として、本件は国の方の法改正であり、それに伴う準備のため体制を作るものである旨説明した。
- (11) **令和5年度の法人役員体制について**
- (12) **令和5年度部局長等について**  
来年度（令和5年度）の法人役員体制及び部局長等について、事務局より説明した。最後に、本学参与の委嘱について千葉委員より説明した。
- (13) **その他**  
本学関連新聞記事の紹介、配布を行った。  
また、新型コロナウイルス感染症対策の状況について、口頭で報告した。  
加えて、シンボルツリーへのイルミネーションについて報告をするとともに、協賛について御礼した。

## 6 意見・質問に対する回答等

学外委員の意見・質問等に対する学内委員及び事務局等の回答等は、次のとおり。

- **目的積立取崩金について（審議事項（1）関連）**  
目的積立取崩金の中にある学長特別枠について、国際交流センター運営費の他、どのような用途を想定されているか質問された。  
これに対して、学長、理事長のヒアリングを受け予算措置したものであり、企業学群構想や、防災復興支援センター事業に対する配分、大学のブランディングに係る広報の部分についての配分など、必要性を加味していったものである旨回答した。
- **本学への志願者確保について（審議事項（1）関連）**  
志願者確保に向けて、県内の高校と具体的にどのような連携を行っているのか質問された。  
これに対して、毎年定期的に県内の高校長との意見交換会や、進路指導担当教

員との意見交換会を行っていること、加えて入試担当の方で県内高校を回り、大学の説明資料を配っている旨回答した。

加えて、本学の体制として、県の高校の校長先生経験者2名を、入試課の特命課長として任命しており、各学校との対応をしていただいている旨説明した。

- **国際交流推進センターの立ち位置について（審議事項（1）関連）**

国際交流推進センターについて、岩手県が運営しているものもあることから、既存の団体と被るようなところがないか、お互いの立ち位置はどのようになってくるのか質問された。

これに対して、本学ではあくまでも学生教育等のサポートに特化したものであり、留学生支援の充実や、外国の大学との国際交流推進のための連携強化などを目指し、ワーキンググループで検討している旨回答した。

- **安全保障輸出管理の対象について（審議事項（1）関連）**

安全保障輸出管理の対象として、県立大学に蓄積されている論文や技術などの盗用を防ぐ目的があるのか質問された。

これに対して、国の方から、武器や軍事転用が可能な技術の輸出管理の取り組みが求められている旨説明した。また、本学においてはそういった体制が整備されていないことから、体制を整備し、当該規制の運用を開始したい旨説明した。

- **防災復興支援センター設置に伴う女性の参画について（審議事項（1）関連）**

女性参画推進専門委員会の中では、防災のところで女性の参画が進んでいないという現状を把握しているため、ぜひ大学独自の視点や調査研究において、若者や女性が防災に関わり、地域の課題解決に進むよう活躍を期待したい旨意見があった。

これに対して、看護学部や社会福祉学部といった先生方、女性の先生方にも入っていただいて、各地域の計画に積極的に参画できるよう、準備を進めていきたい旨説明した。

- **外部資金の調達について（審議事項（1）関連）**

本庄照子奨学金を除いた、外部資金の調達が前年度を下回っていることについて、改めて先生方の研究活動をアップしていただき、来年度以降数字が上がっていくようお願いしたい旨意見があった。

これに対して、学長を筆頭に科研費の支援チームを組織し、取り組みを強化しており、今後も採択事業を増やしていきたい旨回答した。補足として、開学当初から着任されている先生方が退職を迎え、世代交代が起こっていることから、少

し戦略を変えて、外部資金を考えていきたい旨説明した。

- **特別な支援を要する学生への修学支援に係る予算について（審議事項（1）関連）**

当該学生への支援として措置されている予算が少ないと感じるが、どういう形で支援が行われるのか質問された。

これに対して、本学では視覚や身体的な障がいをもっている学生、修学に関してちょっと支援が必要な学生が14、5名程度おり、支援として、大きく画面を出すためのポータブルパソコン等機材の貸与を行うための予算化である旨回答した。また、サポートサロンのカウンセラーによる支援、ケースワーカー的な業務を行う学生コーディネーターによる支援等で、ご質問とは別の費用で予算化している旨併せて回答した。

- **少子化対策や国際交流の推進について（審議事項（1）関連）**

少子化問題が岩手県や国でも大きく捉えられている中で、介護に就く人材や農業に就く人材を確保するため、外国人の就労についても進める必要があると考えており、県立大学の立場でもぜひそういった事業を行ってほしい旨話がされた。

これに対して、産学官の連携の中で、しかるべき役割を学の立場で求められるよう話があれば、当然本学としても検討していきたい旨説明した。

また、人材不足の観点では、今後はいろんなサイバー技術を用いて、人の変わりにロボットが行うということは今試行錯誤しており、今後もそういった新たな側面を作りこんでいく必要がある旨説明した。

- **ダイバーシティ推進室の設置について（審議事項（3）関連）**

推進室の設置には賛成で、ぜひ強力に進めていきたい旨話があった。

一方、学内におられる先生方の知見を得ながらだけではなく、専門の担当職員を置くことや、文部科学省の支援策もうまく活用していくことも検討していただきたい旨意見があった。

これに対して、参考にさせていただきたい旨回答するとともに、現在の大学の事務局体制では、縦割りの中で知見を持っている県派遣職員についても力を借りることが難しいという問題もあることから、横断的に知見を活用できるようスタートしていきたい旨回答した。

また、先生方から個別に意見等を頂戴しているものもあるが、必ずしも大学全体で共有されているものではないため、大学組織で行うものと法人と一体でやるものと、整理しながら進めていきたい旨説明した。

以上